

第6次日南町総合計画に対するパブリックコメントの結果について(骨子案)

【1. パブリックコメントの募集】

- ① 募集期間 令和 元年12月16日(月) ~ 令和 2年 1月 6日(月)
- ② 募集方法 日南町のホームページにて公開し募集する。
- ③ 意見件数 2件

【2. 意見の内容】

	ご意見	ご意見に対する考え方
1	<p>今年の子の年。根を広げ幹を実を目的に進む。裕福なまちを目指して大きい和を鼠の様に広げたい。 私の夢を、 <b>1. 教育の振興</b> 平素ご尽力いただいていること乍ら一言。学校教育を小中学校のランク上げはよし悪しありますが、パソコン使用の学校ができました。時代は進んだ。クレパスの使用を高めたり、その他。</p> <p><b>2. 文化と経済の振興</b> 米子市との交流を深めたい。町内で住むには楽しみがもっと必要。短い時間楽しみ、我が家に帰れる場があること。そして大勢の場、和みがほしい。だから、日南～米子の交通網を高めること。菅沢～大木屋間の五輪峠にトンネルを。南部町と国へ。 米はだいぶ浸透したが野菜を。これから日南パッチをたくさん作り町をアピールする。そして和やかな会話を心がける。 日野郡共同体は大事だが、時代とともに情勢は変わる。</p> <p><b>3. 野菜団地を造る</b> 団地化と日南野菜試験地の協力・利用を高める。若い主幹となる人を試験地の雇用人として勉強させる。季節野菜の選定、指導者へ。私は特に日南独特なもの、霜・雪野菜を。これは冬季の収入となる。 場所の選定は菅沢がよいと思われる。空家利用、団塊世代、それ以降の人に手伝いをしてもらう。</p> <p>あれこれ書きました。時間もないので終わります。 ※原文のまま記載。</p>	<p>1. 教育分野において、今後ICTを活用した教育プログラムの導入による社会で即戦力となる人材育成に取り組めます。またあわせてふるさと教育による郷土愛の醸成にも取り組めます。</p> <p>2. 今後様々な分野で近隣市町村との連携は必要になります。インバウンド施策、交流人口増加施策など連携を図っていきます。</p> <p>3. まちの主要産業である農業、とりわけ野菜栽培に関してはAI、IOTを活用しながら効率化を図ることが必要となってきます。新たな栽培品目へ挑戦される方の支援など、積極的に取り組めます。</p>
2	<p><b>1. あいさつ</b> 「日本創成会議」による消滅可能性都市公表の件は、あまり地方行政が長くこだわる必要はないように思います。会議体の立ち位置も不明瞭ですし、地方生活者にとっては肌で感じていることです。無責任にセンセーショナルに大々的に公表されたことにも憤りを感じています。同一国内の戦略ゲームのような競争を煽って、高みの見物を楽しむ方達でしょうから、キーワードとして付き合い続けなくともよいのでは・・と思います。</p> <p><b>2. 第1章の2. 計画の役割について</b> SDGsという理想、理念については原則的には共感を持っておりまして、これを日本の地方行政にあてはめて計画を作ることに賛成です。ただ、日本政府においてSDGsがどのように解釈され利用しようとするのか、今後、日本政府が誠実に取り組んでいくのかは不透明で疑念はぬぐえません。</p> <p><b>3. 第2章の2. まちづくりの方向性(中心地域整備)</b> 「コンパクトビレッジ」という考え方は、都市部では「コンパクトシティ」と言われ、学者の間では、随分と以前から語られていた都市構想です。大都会では、高度経済成長期の所謂〇〇ヶ丘、といった膨大な当時のニュータウンがあります。それが同時期にオールドタウンとなり、ゴーストタウンになります。これをどうするか。やはりコンパクトにするしかない、と多くの研究者が言い、人によっては、中世ヨーロッパの城郭都市の再現をイメージしています。インフラの整備、公共サービスの提供、それを如何に効率的に行うのか。 具体的項目として挙げられている「芝生化」はとても好ましく感じます。過去から長く、維持管理ができるのか？という辛辣な反論があったのですが、要は何に価値を置くのか？だと思います。女優ケビン・コスナー主演の「フィールド・オブ・ドリームス」というアメリカ映画がありました。野球場の芝生が、神聖でとてもスピリチュアルな場所として描かれていました。まして欧州のサッカー場はどうでしょう。芝生の匂い、転んだ時の肌ざわり、例えばそういう魅力、文化が日本でも当たり前になってきていて基本的なインフラに近くなっているのではないのでしょうか。</p> <p><b>4. 第2章の2. まちづくりの方向性(就労・雇用)について</b> 基本的に、日南町には仕事がない、という都市伝説となった呪縛にまだまだ多くの方が囚われていると思います。鳥取県の最低賃金に現れるような賃金、給料水準の問題もありますが、実際には都市部には多くの非正規雇用労働者が溢れ、かつての一億総中流という幻想は明らかに崩壊し所得格差は広がっています。国の在り方としてどうか。思いはありますが、それは別途にて。 都会で非正規労働者だった方が、日南町で正規雇用となって働いた時、どのように感じられるのでしょうか。非正規であることの精神的・経済的痛みと、正社員と呼ばれることの喜び。そんなことも想像します。 高度ITを介した遠隔就労の実例を見てみたいと思っています。語られますし可能だとも思うのですが、もうひとつイメージが完成しない。どうしてもかなり高度な技術や芸術的才能を持った特殊な人材に許されるエリア、のイメージに留まってしまいます。田舎に住むフツーの方と、都市部で営業する企業とを、アダプトする試みはなにか手立てがないのでしょうか。日通へでもヤンマーへでもそのようなモデルを実現させるオファーはできないでしょうか。 高齢者雇用は残念ながら時代の必須となりました。</p>	<p>1. ご指摘のとおり、「消滅可能性都市」というワードは「地方創生」においてセットとなっている感じは否めません。大事なことは日南町としてどのように人口減少、人口流出を最小限にとどめ、住んでいる方が幸せを感じられるかであると考えます。結果、それがUターンの方々や住みやすさであったり、選んでいただけるまちになるのではないかと考えます。</p> <p>2. 骨子案の26Pから28PへSDGSの17の目標を項目ごとに日南町で取り組むべき内容を記載しています。住民の皆様にも身近に感じていただけるよう、分かりやすい記載方法について再度検討します。</p> <p>3. 日南町の進めていますコンパクトヴィレッジの取り組みは、住み慣れた地域で、これまでどおりお住みいただき、地域を守っていただき、生活の機能(買い物や交通、福祉等)の中心を、道の駅を核とした中心地域へ集約していくものであります。 芝生化については町民の皆様が多く集え、誰でも利用できる場所を検討してまいります。</p> <p>4. 雇用についてはご指摘のとおり、多くの企業で雇用を求めています。企業と求人者のミスマッチ解消に努めるとともに、高齢者を含めた空いた時間を有効に活用できる雇用の紹介等、町内企業と連携していきます。</p>